

魔法の言葉プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：長谷川雅美 所属：太田市立尾島小学校告書 記録日：平成30年2月2日
 キーワード：読み書き障がい 自閉症スペクトラム 自分なりの学習方法

【対象児の情報】

- (1) 学年、年齢など 4年生 10歳 男子
- (2) 障害名 自閉スペクトラム症 読み書き障がい（ディスレクシア、ディスグラフィア）
 構音障がい
- (3) 障害と困難の内容
- ① 障がい
- ・5歳の時、自閉スペクトラム症と診断される。
 - ・1年生、2年生は通常学級に在籍していた。
 - ・3年生から特別支援学級において、国語科と算数科の授業（週11時間）を受けている。
- ② 困難の内容
- ・不注意が高く、聞き漏らしや見落としが多い。
 - ・文字が絵のように見えているようで、細部まで正確に書くことができない。
 - ・不器用さが見られ、道具（筆、定規、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、ボール、短縄など）を使うことが苦手である。
 - ・協応運動や文字の大きさや形をコントロールするなどの細かい作業は難しい。
 - ・語彙が少なく、文字や言葉からイメージすることが難しいため、文章の読み取りや日常における対人関係で困難さが見られる。
 - ・記憶を保持することが難しい。
 - ・絵を描くことは難しい。

【活動目的】

- (1) 当初の目的とねらい
- ① 自分なりの学習方略を身につけることで、学習内容の定着を目指す。
- ・書きの苦手さを補う学習方略を身につける。
 - ・読みの苦手さを補う学習方略を身につける。
- ② 自分の気持ちの伝え方の方法を身に付けることで、周りの友達との双方向の対話が増えることを目指す。

(2) 活動を実施した期間 平成29年4月10日（月）から平成30年2月2日（金）

月曜日	国語 1 時間	算数 1 時間	
火曜日	国語 1 時間	算数 1 時間	自立 1 時間
水曜日	国語 1 時間	算数 1 時間	
木曜日	国語 1 時間	書写 1 時間	算数 1 時間
金曜日	国語 1 時間	算数 1 時間	

(3) 活動の実施者 長谷川雅美

(4) 実施者と対象児との関係 担任（自閉症・情緒障害児学級担任）

【活動内容と対象児の変化】

(1) 対象児の事前の状況

① 聞くこと

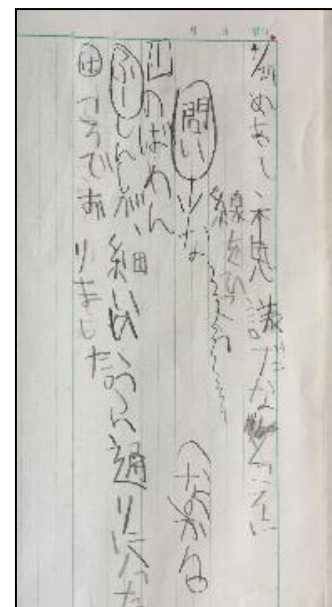
- ・一斉指導で3つ以上の指示は聞き取れず、混乱すると小走りを始める。
- ・個別指導でも3つ以上の指示は難しい。
- ・経験したことについての指示を聞くときは、多少内容が聞き取れなくても大まかに理解できる。
- ・本を読んだり、考え事をしていたりすると、一切、他の人の話が入っていかない。

② 書くこと

- ・書くことに非常に苦手意識があり、取り組みを始めるのに時間がかかる。
- ・文字が絵のように見えているようで、ノートを書くことはもとより、漢字を正確に書くことができない。
- ・作文などはひらがなで書く。
- ・12mm方眼のマスの中に文字を納めて書くことができない。
- ・板書を取るのに苦手意識を持ち、協力学級での授業は3年生の時からノートを取らない。
- ・自分の考えや思いがあっても、言葉で表現することが苦手である。
- ・作文をするとだらだらと事実を並べる文になる。
- ・自分の感情を表す言葉も少ないため、「うれしい」「たのしい」が多く見られる。

③ 読むこと

- ・文字を読むことはすらすらできるが、文字からイメージを想像することができないため、文章の内容を理解することは難しい。
- ・物語文などの内容の特に把握は難しい。特に登場人物の心情を読み取ることは難しい。
- ・文字からだけでは、誰が言った台詞かを理解するには、時間がかかる。
- ・代読した文章については、内容を大まかに理解することができる。ただし、語彙が少ないので、聞いても理解が難しいものもある。
- ・テスト問題では問題を理解することが難しいが、読み上げられるたり、口頭で問われたりするとできるものもある。



④ 話すこと（コミュニケーションをとることも含む）

- ・語彙が少ない。
- ・論理的に話したり、順番に話したりすることができない。
- ・休み時間は一人で本を読んで過ごすことが多い。
- ・自分の興味がある話題を一方向的に話すため、双方向の対話は難しい。
- ・自分が話したいことがあると、相手の都合にかかわらず、話かけ続ける。

⑤ 計算すること

- ・わり算の筆算が途中までで終わってしまうことが多く見られる。
- ・記憶が保持できず、計算を暗算で行うことができない。そのため、計算では手を使って1けた同士の加法や減法を行う。
- ・九九で覚えている段は2と5の段である。ヒントとして九九表を見ながらであれば、計算をすることができる。

⑥ 推論すること

- ・図画工作科で絵を描いたり、理科や社会の観察レポート、総合的な学習の時間でのまとめなど、絵を描いてまとめたりすることは、非常に苦手である。
- ・既習事項を想起して学習をすすめることは苦手である。

⑦ その他

- ・経験したことは、多少指示が理解できていなくても、行動に移すことができる。
- ・音楽のリコーダーや鍵盤ハーモニカはできない。
- ・算数で三角形や平行線、垂直線を書きな道具を使うのが難しい。
- ・家庭ではタブレットを使って学習を進めている。

(2) 活動の具体的な内容

① 自分なりの学習方略を身につけることで、学習内容の定着を目指す。書きの苦手さを補う学習方略を身につける。

- ・新出漢字や分からない漢字の書き順を調べることを目指して→常用漢字 筆順
- ・漢字を捉えやすくすることを支えることを目指して→かん字ドリルシリーズ 常用漢字 筆順
- ・ノートテイクなどの支えることを目指して→カメラ機能 keynote
- ・家庭での漢字学習を支えることを目指して→漢字忍者 かん字ドリルシリーズ



② 自分なりの学習方略を身につけることで、学習内容の定着を目指す。読みの苦手さを補う学習方略を身につける。

読みの苦手さを補う学習方略を身につける。

- ・分からない言葉の意味を調べることを目指して→例解学習 国語辞典
- ・音やイントネーションの正確さを身に付けることを目指して→デージー教科書
- ・イメージのしやすさを支えることを目指して→画像検索 動画検索 カメラ機能
NHK for School
- ・語彙を増やし、読み方のスキルを身に付けることを目指して→NHK for School



③ 自分の気持ちの伝え方の方法を身に付けることで、周りの友達との双方向の対話が増えることを目指す。

- ・コミュニケーションスキルを身に付けることを目指して→NHK for School
- ・言いたいことなどの整理をささえたり構成し、直したりすることを目指す→ロイロノート



(3) 対象児の事後の変化

取り組み：書きの苦手さを補う学習方略を身につける

① 常用漢字 筆順

新出漢字や分からない漢字の書き順を調べさせたいと考えて、「常用漢字 筆順」を導入した。「常用漢字 筆順」は多少字形の変形があっても検索でき、アニメーションで書き順が示されるため、形を捉えることが苦手な本児にとって使いやすいと考えた。

(1 学期：使い方を覚える)

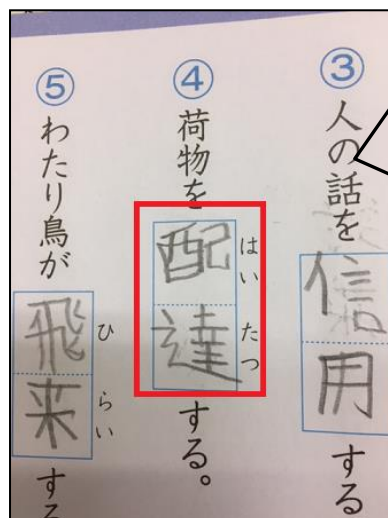
4月から、あかねこ漢字スキルと併用してつかい始めた。4月は字形が整わない文字が多く見られた。7月になると少しずつではあるが、改善が見られた。

字形が整っていないくとも、手書き入力をするると該当文字が出ることや、始点や終点、方向性がアニメーションで示されることが、本児の文字の認識に有効であったようだった。また、手元で、かつ大きな画面で見ることができたことも、文字を捉える助けとなっていたようだ。



4月
漢字スリ

上に書かれているお手本を見ながら書いても、正確に書くのが難しいようだ。

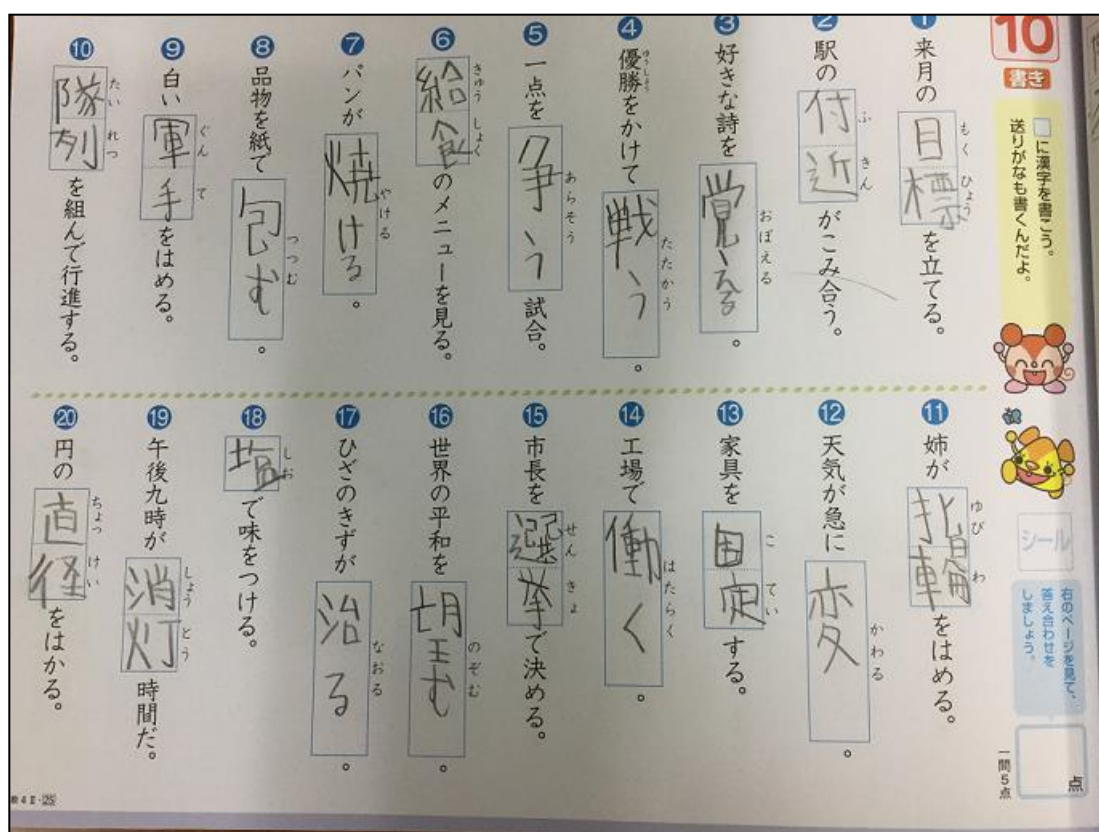


7月
漢字スリ

4月に書いた文字もなんとか正確に書けるようになってきた。

(2 学期から：必要な時はどんどん使う)

9月からは、必要なときに、自分から使うように促した。そうしたところ、教科書にある「漢字の広場」では、既習漢字が出てくるため、何度も確認しながら書くことができた。漢字スキルで練習するときも、形を何度も見ながら確認して書くため、正確に書けるようになってきた。



② 小1かん字ドリルシリーズ

昨年度、本児は家庭学習として毎日科せられる漢字学習は苦手すぎて行わず、今年度の4月当初も漢字ノートすら持ち帰ることはなかった。そこで、まずは漢字練習に対する苦手意識を少なくさせたいと考えて、「小1かん字ドリルシリーズ」を導入した。指で入力できること、筆順が示されること、5回あっという間に書けることから、本児にとって使いやすいと考えた。

(1 学期：漢字を練習してみよう)

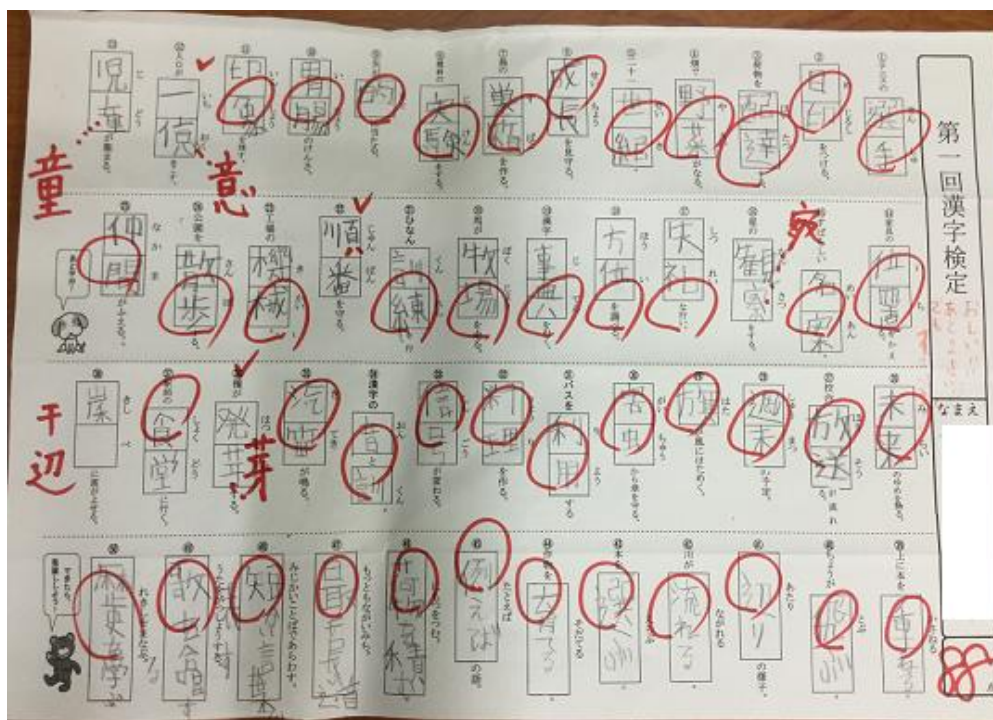
6月中旬から自主学習として、「かん字ドリルシリーズ」を提案したところ、楽しそうに取り組むようになった。協力学級で自主学習として認められたことも、より学習意欲を高めたようだった。

7月からは、よりゲーム感覚の強い「漢字忍者」を行うようになった。自主学習で行うようになった。



(2 学期から：どんどん使ってみよう)

2 学期も同様に取り組み、10月になると4年生で学習した漢字に取り組みはじめた。定着を目指して行ってきたものである。冬休みの明けの漢字検定「第1回漢字検定」(1月12日実施)では、字形も整い、88点を取ることができた。



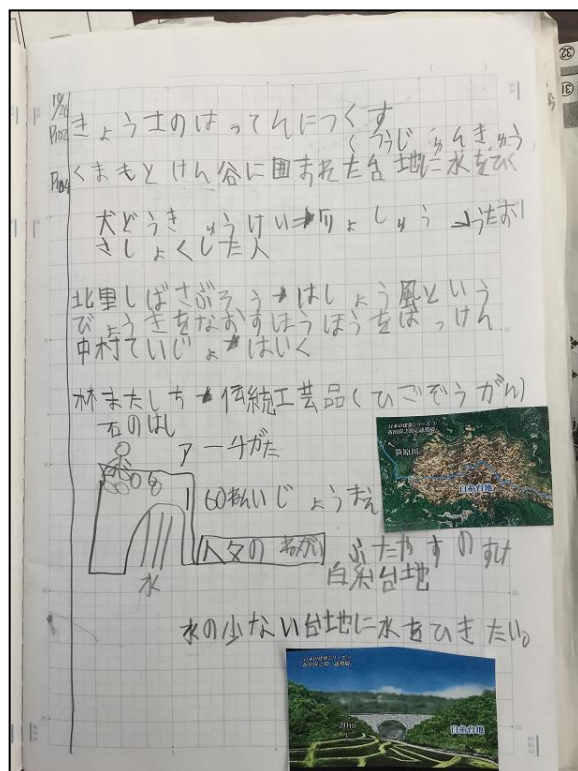
② カメラ機能

(10月から)

書くことに苦手意識を持ち、なかなかノートを書こうとしなかった本児にとって、カメラ機能はノートの代わりになるであろうと考えた。実際には1学期からお願いしていた案件だったが、通常学級で認められるには、時間がかかり、必要な部分のみとなった。

Kさん 「先生、教科書の写真を書けと言われたけど、うまくかけないから、写真とって貼り付けてもいいかな。」
教師 「これは、アーチ橋をかいたんね。教科書をみても絵を写すのは難しいね。担任の先生にいてみようかね。」
Kさん 「言ってみる。」

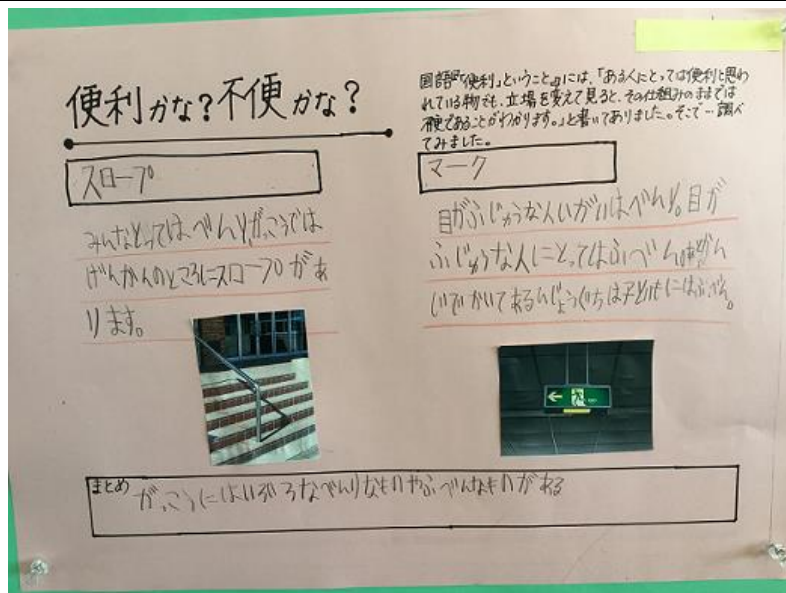
この写真を貼ったノートは、通常学級の児童にも評判がよく、「私のノートにもほしいな」というリクエストが多く聞かれた。本児は自分の弱さを自分のできる方法で補えるようになってきたと実感した。



③ keynote

3学期の国語科の教材「ポスターセッションをしよう」では、なかなか思うようにポスターが作れない本児の姿があった。

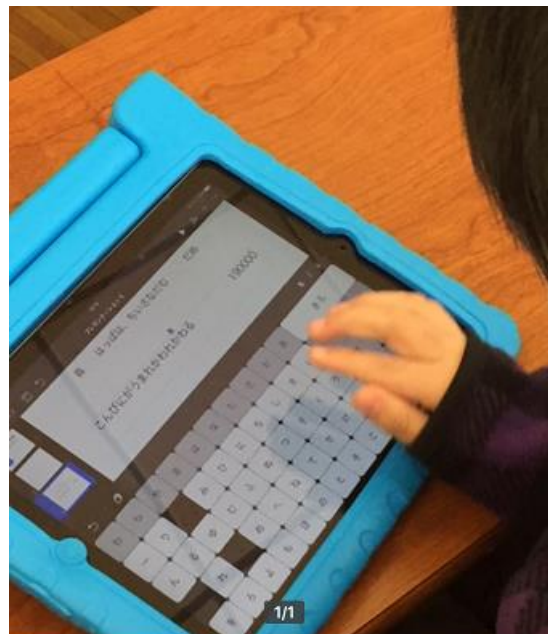
Kさん 「口の中に、何、書くん？」
教師 「自分で調べた設備の名前を書いてね。下の広いところは、それについての説明。」
Kさん 「めんどい。(文字は) どんなくらいの大きさに書けばいいん？線書いてないし・・・。」
教師 「線、書いてみようか。それに沿って書いてみてね。」
Kさん 「・・・。」 無言で作業を始める。



そこで、「総合的な時間 ちきゅうたんけんたい」では、ポスター作成において、書きの負担を少なくさせたいと考えて、「keynote」を導入した。思いがあっても、書くことに苦手意識が強い本児にとって、ひらがなで入力できることで力が発揮されると考えた。

ひらがなでの入力に慣れさせるために、総合的な学習の基礎学習の場面で、気づいたことをメモに取るところから使い始めた。周りの児童が鉛筆でメモを取る隣で、タブレットを使いながら、学習を進めた。

教師 「ねえ、総合はタブレットで文字を書いてみる？」
Kさん 「いいね。あいうえおでいれるやつでしょ。書かなくていいからね。楽。」



実際に、国語のポスターでは、「スロープについて」「マークについて」を枠や線にそって書くのに、28分かかった。しかし、「keynote」を導入した総合的な学習の時間では、2枚を作るのに12分程度であった。本児は、「これなら、すいすいける。」「これは、書かなくていいから、楽。」と言いながら、作業を進めていた。

入力は、1学期の総合的な学習の時間に学習したローマ字入力を経験したが、なかなかうまくいかなかった。そのため、五十音キーボードを、本児の希望で使うこととした。

総合的な学習の時間 ちきゅうたんけんたい



なぜ 調べるわけ

この写真を見て、びっくりしました。明るいのがこんなに、あるんだと思いました。



これは楽だな。
こんな感じで、8ページくらい作って、印刷すれば完成だね。あいうえおだとい
いね。すすいける。

振り返り：書きの苦手さを補う学習方略を身につける

- ・「書く」ことが苦手な本児にとって、筆順、形、意味など知りたい情報が即座に調べられ、かつ手元にあることで、書く活動へのハードルが低くなり、学習が進んだようだ。
- ・50音キーボードで入力を行ったことで、自身の思いが存分に書けたようだ。まだまだキーボード入力に慣れていない部分があるが、この有用性が感じられたようだ。

取り組み：読みの苦手さを補う学習方略を身につける

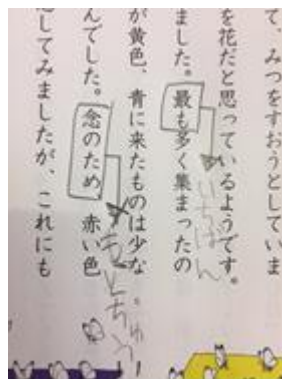
① 例解学習 国語辞典

分からない言葉の意味を自分で調べさせたいと考えて、「例解学習 国語辞典」を導入した。「例解学習 国語辞典」は指で入力できること、写真を貼り付けられることから、本児にとって使いやすい物であると考えた。

（1学期：使い方を覚えよう）

4月下旬から5月中旬に学習した教材「白いぼうし」では、教科書の下の部分にある言葉を「例解学習 国語辞典」を使って調べた。

Kさん 「もぎたて」→例解学習 国語辞典→「もいだばかり」
Kさん 先生、「もいだ」って何？
教師 「もぐ」を調べてみたら、わかるかな？
Kさん 「もぐ」→例解学習 国語辞典→「ちぎり取る」
「夏みかんをちぎり取ったばかりということか」



教科書の下の部分にある言葉から調べる練習を始めた。手書き入力の気軽さもあり、進んで意味を調べることができた。また、調べたものの中にあつた分からない言葉を続けて調べることができた。

6月下旬に学習した教材「花を見つける手がかり」では、教科書の下の方にある言葉を「例解学習 国語

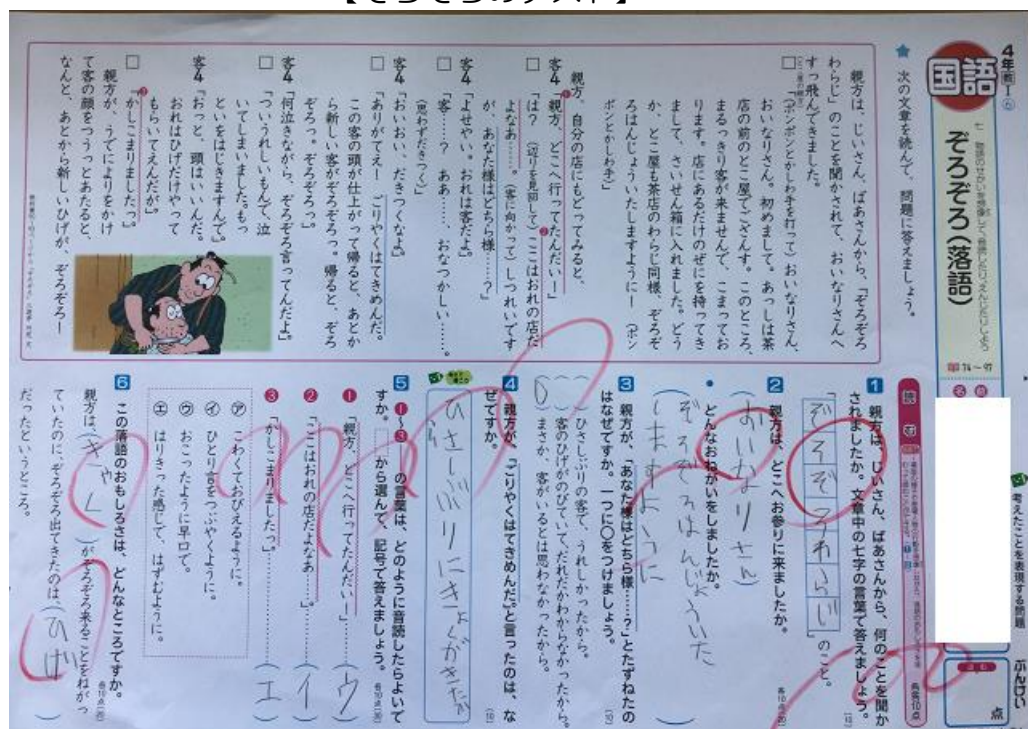
(2学期：必要な時にどんどん使ってみよう)

② NHK for School 動画検索

(2学期から)

そこで、まず、NHK for Schoolの「寿限無」を視聴した。「落語」のイメージが大まかにつかめたようだ。また、落語家が幾人もの声色を変える話芸に引き込まれたようだった。その後、動画検索で見つけた、「ぞろぞろ」を視聴した。

【そろそろのテスト】



Kさん 「先生、教科書の挿絵だけだと、足りないよ。もっと、絵がなくなっちゃ。」
教師 「そりゃあ、そうだ。じゃあ、どうしようか。絵本ならあるよ。」
Kさん 「おはなしのくにをタブレットで写真をとればいいからさ。やる。」
教師 「じゃあ、やってくれる。印刷して授業で使おうよ」

教師は、絵本から挿絵を用意して授業に臨んでいたが、Kさんは家庭でも「おはなしのくに」を視聴していたため、自分なりのアイデアを教師に提案してくれたようだった。

この提案にそって作ったワークシートのおかげで、ごんぎつねの「読み」がよりよく進んだように思われる。授業では、挿絵を、話の順に従ってワークシートに貼り付けた。その絵にそって、それぞれの場面で「不思議さがし」を行った。文の叙述から、答えを見つけるのには苦戦することが多かったが、挿絵がヒントとなりスムーズに読みが進む場面も見られた。



場面一
不思議に思ったこと
「なんで、さかなをなげたの
う。」
答え
「おもしろいから」
「いたずらをするともみんなびっくり
するから。」

③ 検索機能

イメージのしやすさを支えることを考えて、「検索機能」を使うことを導入した。総合的な学習の時間の導入で、コンピュータ操作やリテラシーの学習を終えたため、授業でも使わせることにした。

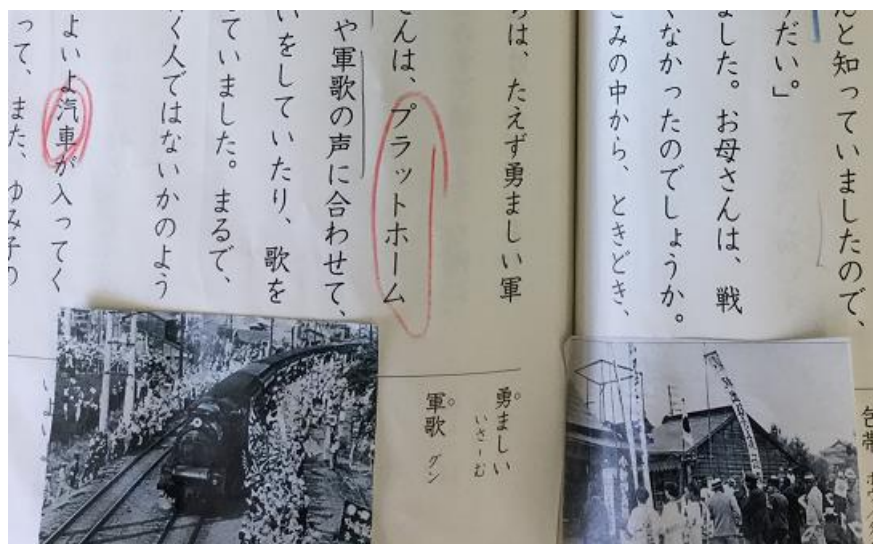
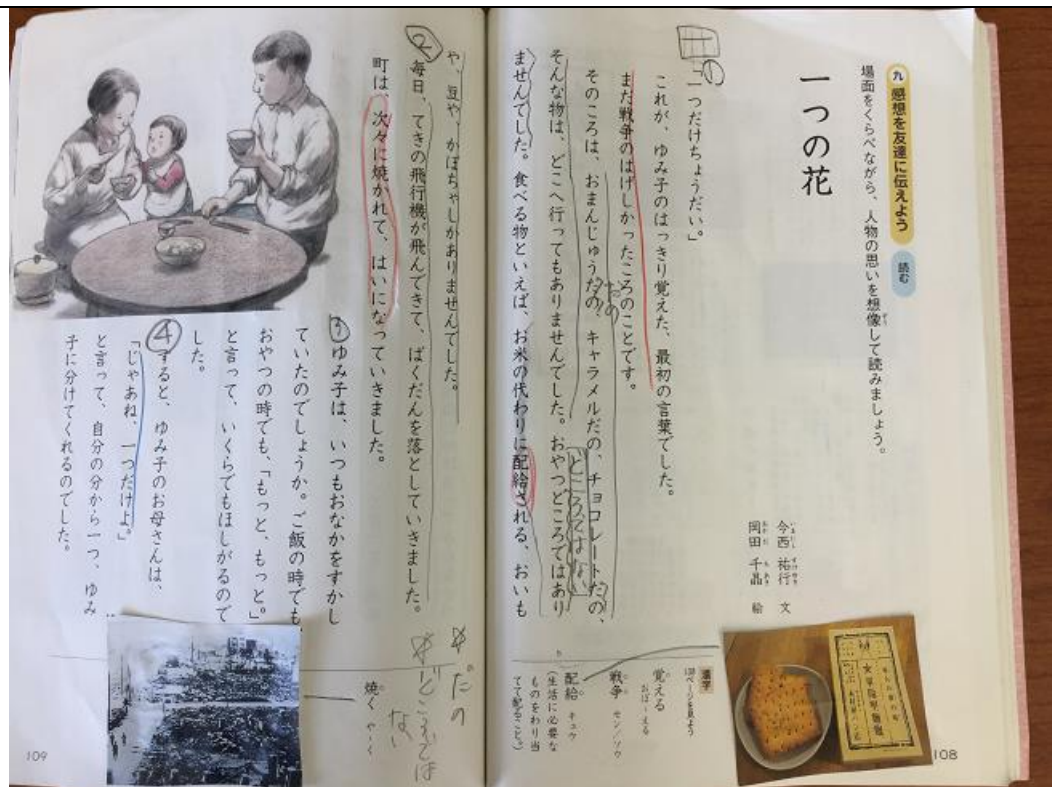
(2学期から)

9月に学習した「ひとつの花」では、わからない言葉を例解学習辞典で調べるだけでなく、画像を検索していた。「ひとつの花」の時代設定は、戦時中の出来事で、本児にとって想像しづらい時代である。

Kさん	「先生、配給って言葉調べたけど、どんな食べ物かわからないなあ。」
教師	「食べ物？米とか、配給されていたのかな？」
Kさん	「もち米を配給するって書いてある。もち米？」
教師	「もち米ってもちになる米だよ。」
Kさん	「先生、おにぎりしかない時代だぜ。ないよ、そんなの。いいよ、調べるから。」

この会話の後、「配給 たべもの」と画像を検索し、教科書に貼っていた。これにより、戦時中の生活などの時代設定がイメージしやすくなり、教科書の挿絵と同じようにいつでも見られるので、効果的であった。

また、これにより、それぞれの登場人物の思いや言葉を考えるヒントとなり、ワークシートにも積極的に思いを書き込むことができた。お父さんがゆみ子にコスモスを一輪渡す場面では、お父さんの思いを、「元気だな さみしいな もう会えないよう せんそうにいかないと」と吹き出しに書き込んでいた。



「汽車」がイメージで
きず、画像検索したと
ころ、戦時中の見送り
の画像がでてきた。

これを見て、汽車や
戦時中の様子がわか
ると、「ゆみ子のお父
さんは見送る人が少
ないね。」とつぶや
いた。自分なりに画
像があると、文が理
解できると感じて
いるようだ。

10月に行った社会科の学習では、協力学級の板書では、なかなか理解が進まず、本児は大変苦労していた。そこで本児に検索した動画を見せると、その中の画像をカメラで残し、印刷してノートに貼っていた。それ以後、通常学級で受けている社会科の授業の後には、タブレットで検索して学習を確認するようになった。時には、クラスなどで友だちに動画などを見せていた。友達から「わかりやすくていいね。」と言われたと、何回も話していた。



振り返り： 読みの苦手さを補う学習方略を身につける

- ・物語文の内容を「読む」、登場人物の心情を「読む」ために、必要な情報を検索し、イメージなどを得る方法を得たことで、「読む」ことができるようになるんだという意欲が得られたようだ。
- ・特に、自分から方法の提案ができるようになったことは、大きな成長である。

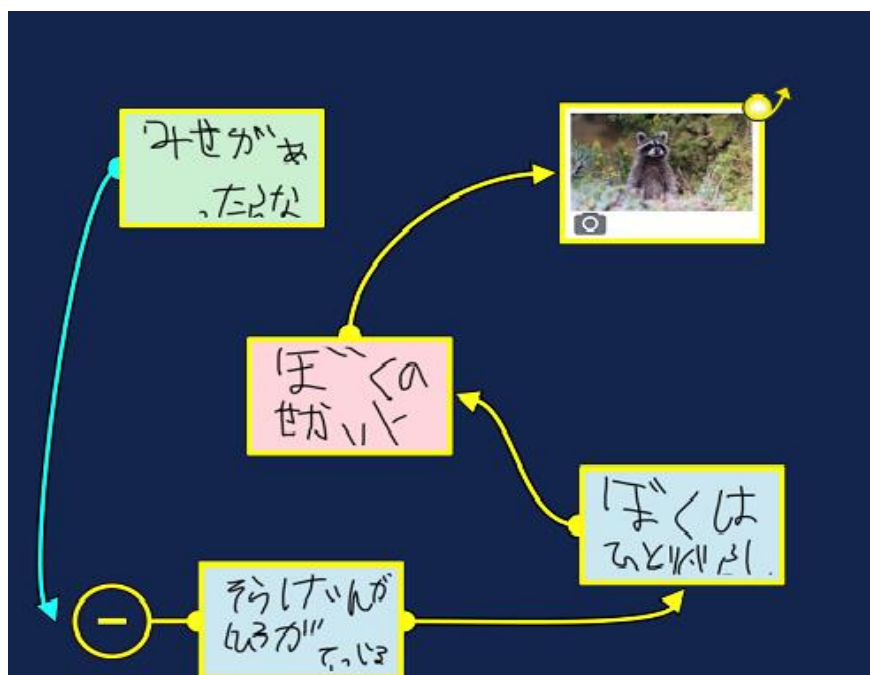
取り組み：自分の気持ちの伝え方の方法を身に付けることで、周りの友達との双方向の対話が増えることを目指す

① ロイロノート

言いたいことや考えなどの整理をさせたり、構成し直したりするために、「ロイロノート」を導入した。言いたいことなどをもっていながら、それらを整理できず、うまく伝えられない本児である。そのような本児にとって、「ロイロノート」は自分の思いや考えが一目で分かり、順番や関係性を整理、構成することが簡単できると考えた。

(1 学期)

6月中旬に学習した教材「写真をもとに話そう」では、教科書の文章をもとにロイロノートを使って、発表原稿を作成した。今までの発表原稿は、思いついたことをそのまま羅列していたが、この教材ではテキストカードを動かしながら、順番などを考えて作成することができた。テキストには、「みせがあったらいいな」「ぼくのせかい」「ぼくはひとりぼっち」「そうげんがひろがっている」と書いていた。これらを動かすことで自分の考えを視覚化し、伝えたい内容を整理しやすかったことが、スムーズな原稿作成の活動につながった。ここでは、手書き入力を使って作成した。



【発表した原稿】

「この写真に**ぼくのせかい**という題名をつけました。**そうげんがひろがっている**様子がわかります。**ぼくはひとりだ**と言っているようです。**みせがあったらな**と思っています。これで発表を終わりにします。」

(2学期)

11月からの総合的な学習の時間では、NHK for School「ど～する、地球のあした」を視聴した後、ロイロノートに気づいたことや疑問点を書き込み、メモとして活用した。

発表原稿づくりでは、視聴したもののの中から気になった場面を写真に撮り、その順番を変えたり、コメントを書き込んだりしていた。構成の順を変えるなど、テキストを活用し、工夫する姿が見られた。考えたことが一目で分かり、コメントや考えを整理するのにわかりやすかったようだ。また、それらを簡単に並び替え構成できるよさが感じられたようだ。

3月の発表会に向けて、これをもとに発表原稿やポスターを作っている最中である。



② NHK for School

コミュニケーションスキルを身に付けさせたいと考え、NHK for Schoolを導入した。それぞれのスキルについて、イメージがしやすい「花影忍法帳 コミ☆トレ」や「で～きた」を視聴した。また、番組の長さが10分から15分であることから、授業中に利用しやすいとも考えた。

(1 学期)

4月から週1時間の自立活動の時間では、「花影忍法帳 コミ☆トレ」を視聴した後、忍法帳に書かれることについて、ロールプレイングや感想を発表し合った。忍法帳に書かれていることは難しいが、番組の内容はわかりやすく、身近に起こる問題であるため、イメージしやすく視聴しやすかったようだ。本人なりにではあるが、「コミ☆トレ」のルールを守ろうとしているようだ。



(2学期)

2学期は自立活動の時間を、それぞれ授業に組み込み、スキルトレーニングを行った。授業の最後の5分を目安にしたので、主に「『で～きた』」の巻戻しの部分を視聴させた。

第3者の目で、「どうすればよかったのか」を考え、番組のように「〇〇だから、ろうかを走っ

てはいけないんだね」とまとめさせた。そうしたところ、「ろうかをあくるく」がテーマの番組を視聴したあと、実際に学校の廊下で、走っている1年生にむかって、次のような声をかけていた。

Kさん 「1年生、ぶつかるから、ろうかを走ってはいけないよ」

振り返り：自分の気持ちの伝え方の方法を身に付けることで、周りの友達との双方向の対話が増えることを目指す

- ・自分の思いを整理するツールを使い、原稿を作ったことで、発表や言葉がけすることに苦手意識がなくなったようだ。
- ・原稿作成では、何度も順番を変えたり、並び替えたりしたことで、わかりやすいものができたようだ。
- ・友だちと話す共通の話題を得たことで、それをもとにスムーズな会話ができたと感じた。

【報告者の気づきとエビデンス】

(1) 報告者の主観的気づき

- ①すぐ調べたり確認したりするツールをもったことで、自分なりに学習方法を見つけ学習に対する意欲が出てたのではないかと感じた。
- ②スキルや言葉を学び、思いを整理するツールをもったことで、順序よく話せばよいことがわかり、友達と双方向の対話が増えたのではないかと感じた。

(2) 主観的気づきに関するエビデンス

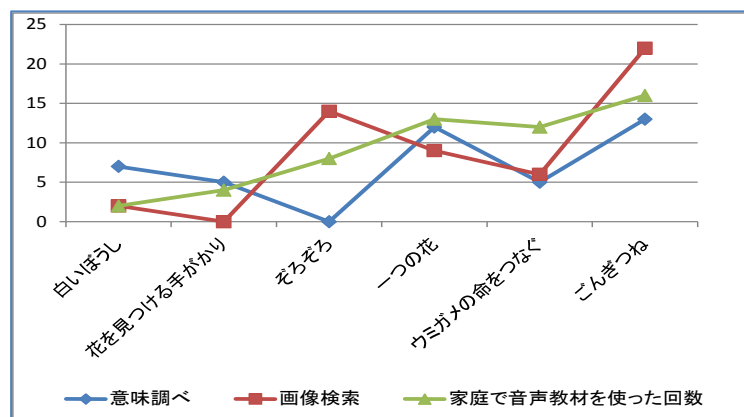
- ①すぐ調べたり確認したりするツールをもったことで、自分なりに学習方法を見つけ学習に対する意欲がでてきたのではないかと感じた。

国語の学習で

手元に置いたタブレットで、教科書の教材文の分からない語句や単語などの意味を調べ、それ書き込みながら、学習を進めてきた。

右のグラフは4月から11月までの教材文ごとの調べた数である。調べた単語は、どんどん増えて、特に物語文では、単語のみならず、それをイメージするための画像の検索が増えてきた。

「読む」ことを自分なりの方法で学習しているようになったと感じる。



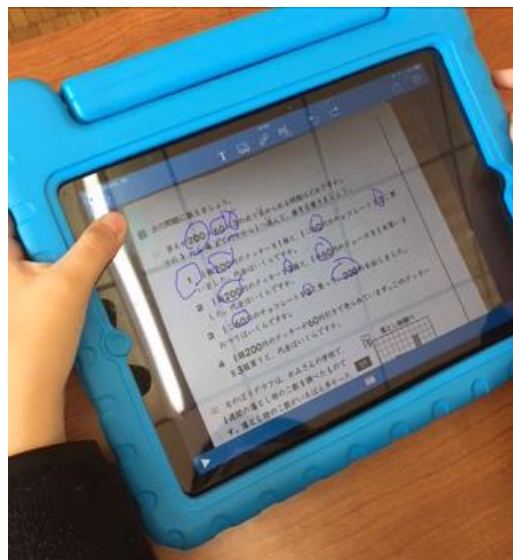
学力テストで

1月23日に市内全小学校では、学力テストが行われた。当日に備え、学力テストの形式と同じようなもので2回練習した。1回目の練習した答案を見ると、半分以上が無回答であり、本人の力十分に発揮されたとは言えない点数（国語23点 算数35点）であった。そこで、2回目の練習では、国語では音声読み上げと五十音入力（漢字以外）を、算数では数字の入力と指での入力を導入して行った。そうしたところ、国語78点、算数82点であった。

この結果を踏まえ、本番当日は2回目の方法で学力テストを行った。点数はこれから通知されるが、無回答は漢字が4問中1問、聞くテストの1問、算数は作図の2問、式の説明の3問であった。

このことは、本児が、いつもの鉛筆で「書く」こと以外に、自分にとって有用な方法があること

を知るきっかけとなった。



②スキルや言葉を学び、思いを整理したり構成したりするツールをもったことで、順序よく話せばよいことがわかり、友達と双方向の会話が増えたのではないか

社会科の授業で

社会科の調べ学習の発表ではあらかじめロイロノートでまとめた原稿を元に、自信をもって発表できた。その発表では、写真や動画をつかって順序よく伝えようとしていた。右の表は、それぞれのテーマについて本児と会話をした友達の数である。

	浄水場	通潤橋	中島知久平
対象児童と 会話をした人の数	4	16	19

発表に使った動画や写真について、クラスの友達から質問され、これが会話のきっかけともなったようだ。

総合的な学習の時間で

総合的な学習の時間「ちきゅうたんけんたい」では、必要なことをメモに取り、ロイロノートを使って、自分の考えを整理し、原稿を構成したりしている最中である。スムーズに活動を行っていると感じられる。

【今後に向けて】

- ① 本児の「書きの負担軽減」
 - ・高学年での板書量を考えると、本学級だけでなく、毎時間のノートテイクについて、キーボードの活用を強く押し進める。
 - ・今年度の取り組みを参考に、より効果的な指導・支援を継続する。
- ② 本校職員の「校内研修の充実」
全職員の「読み書き障害」への理解と共通支援を、徹底的に研修していく。
- ③ 本校の「年間指導計画への記載」
国語科・算数科の学習内容とねらいを鑑み、発達障害への支援項目を明確に記載していく。

